

同日実施した嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の診断一致率の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2019年8月27日 ～ 2021年3月31日

〔研究課題〕 同日実施した嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の診断一致率の検討

〔研究目的〕 本邦では高齢化に伴い加齢および様々な原疾患に起因する嚥下障害を有する患者さまが年々増加し、医療現場で嚥下障害を評価する機会も増加の一途を辿っています。機器を用いて行う嚥下評価法としてVEあるいはVFの2つの主な方法があり、以前の報告ではこの2つの方法の一致率は80%以上の一致率とされています。しかしながら、実際に同日に2つの検査を行い、検討している報告はありません。本研究は同一患者さまの同日における両検査の判定一致率を明らかにすることです。

〔研究意義〕 同日に行ったVEおよびVFの検査結果の一致率をより明確にすることで当科における診療システムの改善だけでなく医療機関での労働時間、患者負担、医療費の削減に反映されると考えます。また、訪問診療でのエビデンスの高い医療の介入に役立つと考えます。

〔対象・研究方法〕 対象は過去に嚥下障害を疑われ当院口腔外科を受診し、同日にVEおよびVFを施行された患者さま、過去約10年間の2009年4月から2020年4月末までの計約150症例とします。VEおよびVFともに喉頭侵入、誤嚥、嚥下後の咽頭残留の有無についての3項目および嚥下障害所見の検出率に着目し、後方視的に両検査の過去に録画してある映像をみて比較検討を行います。なお両検査の評価は摂食嚥下リハビリテーション学会認定士を有する歯科医師3名で行い、それぞれ合計2回ずつ評価を行います。そしてVEおよびVFの喉頭侵入、誤嚥、嚥下後の咽頭残留の有無についての検出率を比較します。さらに昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門に所属している摂食嚥下リハビリテーション学会認定士を有する歯科医師3名でVEおよびVFの診断したものを正答とし、嚥下リハビリテーションに従事する認定士を有するもの10名、有さない者10名にも評価をしてもらい、一致率を検討し評価項目による有用性および簡便性の検討をします。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部 医学研究科 形成・口腔顎顔面外科学講座
昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門

〔個人情報の取り扱い〕

過去にVEとVFを同日に施行し録画出来ている症例を匿名化し、評価結果などをExcelシートにまとめます。この表を用いてランダムに並べ替え、VEとVFの動画は個人が分からないように匿名化し表の通りナンバリングを行い、新規のDVDを作成し研究を行います。その際に使用したExcelシートやDVD等の個人情報は本学講座内で厳重に保管致します。

対象となる患者さまで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：形成・口腔顎顔面外科学講座 病院教授 市ノ川義美

研究分担者：形成・口腔顎顔面外科学講座 助教 小原研心

形成・口腔顎顔面外科学講座 大学院生 平田 亮介、福西佑真

所属：帝京大学医学部医学研究科 形成・口腔学顔面外科学講座

住所：〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) 〔内線〕 30349